

令和5年度 杉並区教育調査の結果

	質問項目	肯定率
1	子どもは、授業で学ぶことにより、毎日の生活を、自分でよりよくするためにできることが増えている	72.4%
2	子どもは、学校でみんなと一緒に過ごすことによって、社会を、自分たちで変えるための知識や考え方が身に付いている	76.7%
3	子どもは、学校で障害者、外国人、性的マイノリティ等の人権に関する多様な価値観について学んでいる	48.1%
4	学校は、子どもが自分の興味や関心に基づいて学んだり探究したりできるよう、家庭、地域、民間の団体や企業等と連携している	70.4%
5	連携する小・中学校による小中一貫教育（小・中学校の教員による協働授業、児童・生徒の交流など地域活動への参加等）が進められている	48.6%
6	子どもは、児童・生徒1人1台専用のタブレット端末や学習eポータル、様々なデジタルコンテンツを、自分の学びや生活の必要に応じ、選択して活用している	71.9%
7	学校の教室や校舎、敷地内には、子どもたち自らが、学びや生活の必要に応じて選択的に活用できる多様な場を設けたり、様々な道具を備えたりする工夫がなされている	52.7%
8	学校は、いじめを絶対に許さないという雰囲気がある	38.4%
9	学校は、子どもの日常の学びの状況や評価方法について、参観、面談、HP、お便り等により充分提供している	68.8%
10	学校は、欠席等連絡、お便りの配布、アンケートの実施のオンライン化が進められている	91.9%

1 1	学校では、教職員、他の保護者、地域の方等とかかわり、子どもの成長や学校生活について考えたり話したりすることができている	56.9%
1 2	子どもが人間関係や自分自身の心の問題で悩んだとき、学校は、その解決を、きめ細かに支援してくれている	43.9%
1 3	学校は、通常の学級や特別支援学校、特別支援学級の子どもが相互に交流したり、一緒に活動したりする機会をつくっている	48.8%
1 4	子どもは、学校生活を楽しんでいる	80.3%
1 5	学校は、児童と幼児の交流、保護者への理解啓発等、幼児教育から小学校教育への円滑な接続を意識した取組を積極的に行っている	50.6%
1 6	子どもは、障害の状態や特性及び心身の発達の段階等に応じた目標の設定や手だてにより自立と社会参加の可能性が広がっている	68.8%
1 7	子どもは、通級指導教室・特別支援教室で学ぶことによって、学校生活全般への参加がしやすくなっている	75.0%
1 8	子どもは、地域の行事に参加している	50.0%
1 9	学校は、特別支援教育の現状や上級学校又は社会人の生活など、障害者に関する様々な情報を、保護者会や個人面談、進路説明会などの機会をとおして提供している	42.9%